

比較家族史学会

# 会報 比較家族史 54

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付  
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

## 比較家族史学会研究大会第五二回大会

日時 二〇一〇年六月二日(土)～三日(日)

会場 佛教大学 成徳常照館(図書館) 五階 常照ホール

京都市北区紫野北花ノ坊町

※JR京都駅より地下鉄二三分北大路駅下車

市バス(西賀茂車庫行、または玄塚行、または松ヶ

崎行)一〇分佛教大学前下車すぐ(別掲地図参照)

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/bu/guide/access/>

問い合わせ先 佛教大学 八木透研究室

佛教大学 京都市北区紫野北花ノ坊町

電話 〇七五―四九一―二二四一(代表)

参加費 一五〇〇円・懇親会費 六五〇〇円

弁当 一〇〇〇円(土・日、両日とも)

※同封の同封のハガキでお申込み下さい。

### ◆プログラム

六月二日(土)

(受付開始) 午前九時三〇分より

(会長挨拶) 戒能民江(お茶の水女子大学)

一〇時〇〇分～一〇時一〇分

#### 【自由報告】

(自由報告一) 田中智子(佛教大学)

「障害者とその家族における貧困の発見」

一〇時一〇分～一〇時四〇分

(自由報告二) 小谷眞男(お茶の水女子大学)

「ベツカリア『犯罪と刑罰』における家族論―「家族の精神」

と「共和国の精神」―」

一〇時四〇分～一〇時五〇分

(自由報告三) 高木侃(専修大学)

「武士の離婚・義絶・和順」

一〇時五〇分～一〇時四〇分

(自由報告四) 森謙(茨城キリスト教大学)

「身分と家―沖繩における結婚・家族・家」

一〇時四〇分～一〇時三〇分

(報告一) 四に対する質疑応答

(昼食休憩:各種委員会等)

(総会)

(休憩)

#### 【ミニ・シンポジウム】

「知識人のライフヒストリーと近代―井ヶ田良治先生と住谷彦先生をお招きして―」

(趣旨説明) 大野啓(佛教大学) 一四時三十分～一四時三十分

(報告および質疑応答) 一四時三十分～一四時五十分

(懇親会)「しようざん」にて 一四時五十分～一五時

六月三日(日)

※一三日(日)の全プログラムは一般市民に公開いたします。

※共催:佛教大学社会福祉学部 後援:京都府社会福祉協議

会、京都市社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業団

## 【特別記念講演】

山城紀子(フリーライター)

「福祉の現場を追う―沖繩・癒しの島“の今”」

(休憩) 一〇時〇〇分～一二時二〇分  
 一一時二〇分～一二時三〇分

## 【公開シンポジウム】

「互助・支援と家族」

(趣旨説明) 若尾典子(法学・佛教大学)

(報告一) 今井小の実(社会福祉学(歴史)・関  
 西学院大学)

「戦前日本の救貧制度と家族の変容」

(報告二) 中野智世  
 (西洋史(ドイツ)・京都産業大学)

「福祉の現場における家族―20世紀初頭ドイツの

「家族保護ワーカー」の活動から―」  
 一二時一〇分～一二時四〇分

(報告三) 二の内容確認質問  
 一二時四〇分～一二時五〇分

(休憩・昼食・各種委員会等)  
 一二時五〇分～一三時五〇分

(報告三) 守屋亜記子

(韓国食文化研究・川崎医療福祉大学)

「老人と食―韓国の老人福祉施設を例に―」

一三時五〇分～一四時二〇分

(報告四) 下夷美幸(社会学・東北大学)

「離婚後の養育費問題からみた日本の家族政策―  
 国際比較の視点から―」

(報告五) 武内一(医学・佛教大学)  
 一四時二〇分～一四時五〇分

「小児医療の現場からみた家族―事例を通じて考  
 える―」

(報告三、四、五の内容確認質問)  
 一四時五〇分～一五時二〇分

(休憩) 一五時二〇分～一五時三〇分  
 一五時三〇分～一五時四〇分

(全体討論・総括) 一五時四〇分～一七時二〇分  
 (閉会) 一七時二〇分

運営委員：八木透、若尾典子、白石玲子、大野啓

## ◆シンポジウム概要

## 【ミニ・シンポジウム】

「知識人のライフヒストリーと近代―井ヶ田良  
 治先生と住谷一彦先生をお招きして―」

現在、近代を対象化するための作業としてライ  
 フヒストリーを手法とする研究が少なくない。し  
 かし、ライフヒストリーのデータは、研究者個人  
 が抱え込んでおり、研究者間で共有しているとい  
 うことを聞いたことはほとんどない。さらに、知

識人のライフヒストリーは多くの場合、知識人自  
 らの叙述や同一の研究分野の者が叙述することが  
 多かったように思う。そこで、本企画「知識人の  
 ライフヒストリーと近代」では、第2次世界大戦  
 の前後までに教育を受けた本会会員にライフヒス  
 トリーを語っていただき、知識人を輩出した家庭  
 環境がいかなるものであったのかについて知るた  
 めの資料を本会の共有の知とすることを目的とし  
 ている。また、ミニシンポでは企画者がライフヒ  
 ストリーの聞き取りを行うが、フロアからの質問  
 を受け付けることにより、幅広い分野からの視点  
 を会員が獲得するための一助になればと考えてい  
 る。(大野啓)

## 【公開シンポジウム】

「互助・支援と家族」

いま、人々の暮らしが、暴力や貧困のなかで、  
 悲鳴をあげている。これを「家族の崩壊」とよぶ  
 ことはたやすい。子どもや高齢者、障害者、ある  
 いは女性らの、生命や健康を、直接、脅かしてい  
 るのは、親しい関係にある家族によることが多い  
 からである。しかし、「家族の崩壊」を嘆くとき、  
 私たちは、家族によって支えられてきた暮らしが  
 ある、という思いにとりつかれることはないだろ  
 うか。温かい家族が、家族の構成員を、そして地  
 域の人々を支えてきた、と。だから、いま、人々は、

家族を強く求める。家族は温かい場、安らげる場  
でなければならぬ、という思いを強めている。

沖繩への高い関心も、そこにある。沖繩は、子ど  
もも高齢者も元気で、温かい家族によって人々が  
支えあっている、というイメージが強い。しかし、

暴力や貧困の深刻さに変わりはない。その結果、  
固定化された沖繩の家族像が讃美されるか、ある  
いは家族の崩壊がより一層、嘆かれるか、である。

いずれにしても、温かい家族像が強化されること  
になる。たしかに、人々が生まれ、育ち、暮らし、  
病気をし、老いていく場として、家族がある。こ

の家族という場に現れる「互助・支援」は、何に  
よって成立しているのか？ほんとうに温かい家族  
関係によって、提供されてきたのか？社会からの

支援なしに、家族という場合は成立してきたのか？  
本シンポジウムでは、精神医療や身体障害者問題、  
あるいは介護や女性問題を取り上げてきた沖繩在

住のジャーナリスト・山城紀子さんの講演をうけ  
て、五人の報告者が、「互助・支援と家族」をテ  
ーマに、議論をする。(若尾典子)

### ◆事務局からの連絡

一年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。賛助  
会員は、五〇〇〇円となっております。今回は  
会費未納分のある方に振込用紙を同封しておりま

す。住所ラベルの右下の既納年度(二〇一〇年四  
月一日現在)が更新してありますが、同日以降の  
振込み、および行き違いの節はご宥怒ください。

また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通  
信欄に会員氏名をお書きください。

二 『比較家族史研究』バックナンバーについて  
『比較家族史研究』の個人でのご購入に関しては、  
既刊分一九号までは一冊五〇〇円に値下げして販  
売しております。

また、一号から全号一括での販売もおこなって  
おります。また、図書館等に収書されていない大  
学で、一括購入のご希望がありましたら、事務局、  
または弘文堂にご連絡ください。

三 二〇一〇年度秋季研究大会について  
二〇一〇年度秋季研究大会は、埼玉学園大学で  
予定しております。発表募集等は、あたためて  
行いますので、しばらくお待ちください。

四 事務局連絡先  
〒一〇二一八六一〇東京都文京区大塚二一―一  
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科  
小玉亮子研究室 気付

電話&FAX: 〇三―五九七八―五三四二  
E-mail:  
(事務局専用アドレス)

### ◆編集委員会からの連絡

比較家族史学会編集委員会では、投稿を募集し  
ています。投稿の締め切りは、毎年、八月末日で  
す。詳しい投稿規程は、学会機関誌『比較家族史  
研究』第二三号以降、毎号掲載されておりますの  
で、ご参照ください。投稿をおまちしております。

### ◆理事会・総会報告

(理事会議事録)

日時 二〇〇九年一月二七日(金)

時間 一八時〇〇分～二〇時三〇分

場所 お茶の水女子大学 本館一階三三三室

出席者 二〇名(委任状を含む)

議題

一 新入会員・退会希望会員について

① 新入会員(河合務、阪上真千子、藤原洋、水戸  
部由枝)の入会が承認された。

② 退会希望会員(塩野雅代、比嘉まさお、松村尚  
子、稲本洋之助)の退会が承認された。

二 理事および会計監査の補充について

孝本真理事ご逝去にともなう理事の補充につい  
て、小谷眞男会員が事務局担当理事として推薦さ  
れ、承認された。

三 『比較家族史研究』について

三 『比較家族史研究』について

二四号の進捗状況について報告があった。二五号については次回会報にて投稿の呼びかけを行うことが確認された。

四 シリーズ比較家族の出版について

國方敬司・永野由紀子・長谷部弘編『家の存続戦略と婚姻：日本・アジア・ヨーロッパ』（刀水書房）が一〇月に刊行されたことが報告され、学会誌で本書の書評を行うことが提案され了承された。

二〇〇八年九月に刊行する予定だった『グローバリゼーションと家族の変容』は、原稿がすべて集まっていないこと、出版には学会の負担金が必要なことが報告された。審議の結果、出版計画を取りやめ、学会誌に投稿論文として掲載する方向で検討することが了承された。今後、シリーズについては、継続する可能性を探ること、関連して、三〇周年記念事業を検討することが了承された。

五 会費について

事務局長より一般会計の逼迫状況について報告があり、特別会計の目的・方針について再検討を行うことが了承された。また、会費を三年以上滞納した会員については、学会規約（第一三条三項）にもとづき、本人に意思を確認したうえで、退会手続きを行うことを確認した。

六 研究大会について

三成理事より、第五二回研究大会の詳細につい

て説明がなされた。運営委員会を八木理事（運営委員長）、白石理事、若尾（典）会員、大野理事で構成すること、プログラム案、シンポジウム企画案が了承された。

七 学会ホームページのリニューアルを年度内に開始することが了承された。

次回理事会予定 二〇一〇年六月一日（金）  
於 佛教大学

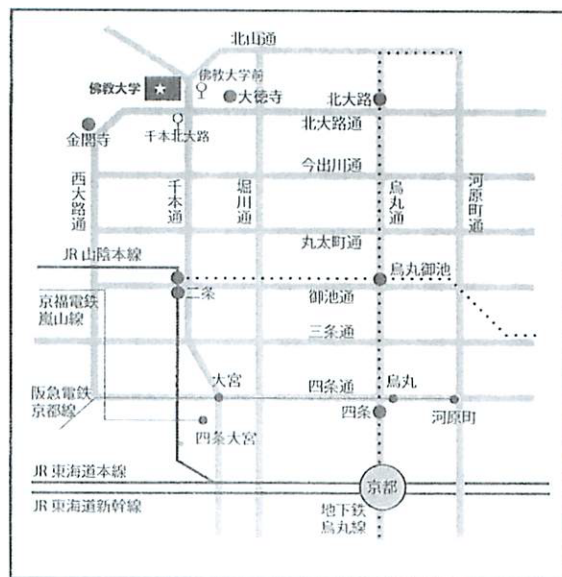
◆新入会員

- 河合務（鳥取大学）
- 阪上真千子（名古屋外国語大学）
- 藤原洋（白山文化博物館）
- 水戸部由枝（明治大学）
- 鈴木伸枝（千葉大学）
- 齋藤百合子（惠泉女学園大学）
- 黄嘉琪（神戸大学大学院）



第52回大会会場案内図

佛教大学 成徳常照館（図書館）5階  
常照ホール



佛教大学紫野キャンパス